

棚尾地区まちづくり事業

平成 26 年 12 月 18 日（木）19 時～

棚尾公民館 3 階

第 4 2 回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行（小笠原幸雄）

1 前回までのテーマに関する参考意見など

棚尾中学校、棚尾の塩田など

2 テーマ 67 「八柱神社の建造物」

(1) 説明（磯貝国雄）

(2) 出席者による補足説明、感想など

3 連絡事項・情報交換など

4 次回日程

第 43 回 1 月 22 日（木曜日）午後 7 時から 「春日社」「おはま平七郎物語」

第 44 回 2 月 19 日（木曜日）午後 7 時から 「新田の開発」「長富公園」

「八柱神社の建造物」

1 要旨

八柱神社の建造物には、拝殿とそれに接続する幣殿及びその奥に祭神を祀る本殿がある。さらに祭礼に使われる神楽殿、又、西の階段の上に天細女命（あめのうずめのみこと）を祀る末社の宮比社が建っている。これらの建物の建設年代は、神社に保管されている江戸時代の棟札（むなふだ）から、推測することは可能であるが詳しくは判定できない状況である。

その他、神馬を納める御厩所は明治 41 年（1908）に建てられた。老人憩いの家として使用されている旧社務所は古久根秋三郎氏の寄贈で明治 43 年（1910）の造営である。社務所は昭和 12 年（1937）に新築され又、正面階段を上ったところにある手水舎は昭和 28 年（1953）の建造である。

2 参考資料

主な参考資料としては次のようなものがある。

(1) 古文書などの文献

- ア 「八柱神社由緒記」 昭和 32 年 8 月 19 日筆写 榊原純治郎
- イ 「平成 21 年度文化財展 八柱神社と棚尾の歴史」
- ウ 「碧南市史料 第 47 集 八柱神社」
- エ 「明治 3 年 神社取調書上帳」
- オ 「明治 10 年 神社什物祭具其他取調書」
- カ 「明治 42 年起 八柱神社財産台帳」

(2) 棟札

保管されている棟札等を年代順に並べると次のとおりである。

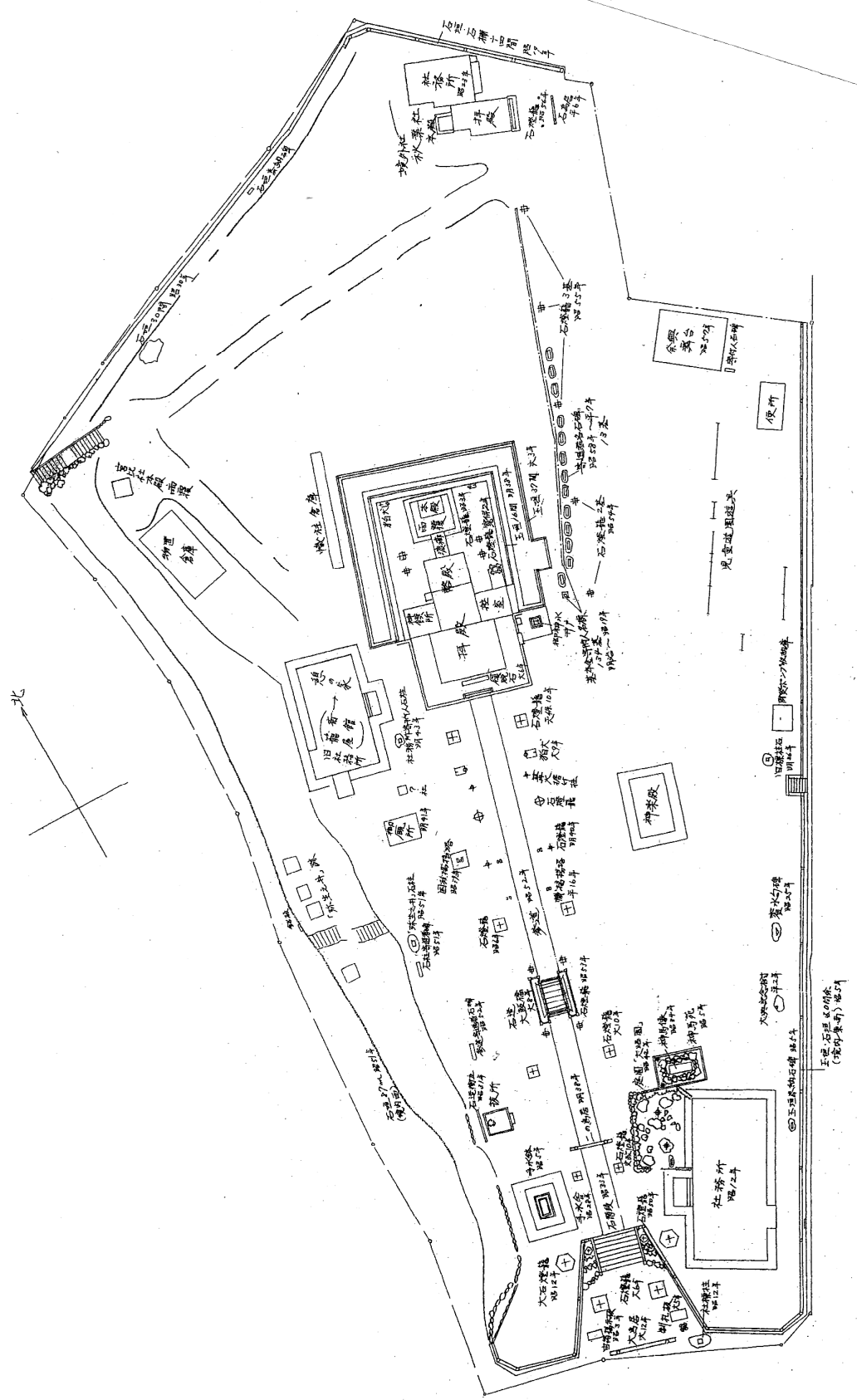
西 暦	和 暦	願 文	説 明
1620 年	元和 6 年	奉献八王子御寶殿之守護所	
1637 年	寛永 14 年	奉建立八王子御寶殿供守護	
1652 年	慶安 5 年	奉造立八王子前屋諸願成就所	前屋は拝殿と思われ

			る
1670 年	寛文 10 年	奉修造大八王子社并華表當処 安全守護所	華表は鳥居のこと
1686 年	貞享 3 年	奉建立八王子・碧海郡・棚尾 邑氏子繁畠幸祈処	
1705 年	寶永 2 年	奉修造八王子上葺鳥居	
1721 年	享保 6 年	奉上葺八王子三笏碧海郡棚尾 村惣氏子	
1760 年	宝暦 10 歳	奉修造八王子御社総氏子息災 安全守護所敬白	棟札は現存しない。 調査の記録による。
1764 年	明和元年	奉修造八王子御社葺替総氏子 息災安全守護所	瓦葺から銅板葺に替 える
1781 年	天明元年	奉修造御社葺替総氏子息災安 全守護所	
1789 年	寛政元年	建立神明息災守護所	中山神明社
1792 年	寛政 4 年	奉再建八王子御社総氏子息災 安全守護所	
1811 年	文化 8 年	奉修造八王子御社葺替総産子 息災安全守護所	
1819	文政 2 年	奉再建八王子宫拝殿一棟	棟札は現存しない。 奎兵衛文書に存在。
1832 年	天保 3 年	奉執行地鎮大行事埴山姫命當 境守護攸	
1832 年	天保 3 年	奉執行地鎮大行事軻過突知命 當境守護攸	
1832 年	天保 3 年	奉執行地鎮大行事岡象女命當 境守護攸	
1832 年	天保 3 年	奉執行地鎮大行事金山彦命當 境守護攸	
1832 年	天保 3 年	奉執行地鎮大行事句句迺馳命	

		當境守護攸	
1832 年	天保 3 年	奉再建再建八王子宫惣産子息 災安全守護所	
1832 年	天保 3 年	八王子御本社添棟札	記録が多いので添えた
1846 年	弘化 3 年	奉造宮御神殿為無病息災長久 急○如律令	
1846 年	弘化 3 年	謹言抑御神殿欲奉造宮久未其 時……	造宮のいきさつを記す
1846 年	嘉永 6 年	奉葺替惣氏子息災安全守護所	
1865 年	慶應元年	奉修造八王子大鳥居氏子繁宮 幸給	
1943 年	昭和 18 年	葺郷社八柱神社本殿	

3 境内配置図

「平成 21 年度文化財展 八柱神社と棚尾の歴史」に使用



正殿 石碑 8.00米
(埋於基中) 18.5米

4 本殿

社殿の奥に位置するのが祭神をお祀りする本殿であるが、常は板囲いに覆われているため建物を直接に拝することができない。一年に一回、10月の大祭には板囲いを外し神事が斎行される。

(1) 形状・規模等

ア 文化財展

桧材 流破風八幡形造 濱掾高欄付

屋根：柿（こけら）葺 …… 檜の細長い板を重ねて屋根を葺く工法

基礎石壇 高サ 0.80m 幅 4.42m 奥行 4.37m

幅 2.95m 奥行 3.50m 総坪 4坪5合5勺

イ 神社取調書上帳

本社 9尺四方

(2) 沿革

ア 棟札からの推測

保管されている棟札から推測すると、建造物の名が微妙に違っているが、宝殿、八王子社、八王子宮、神殿とあるのは本殿と仮定すると再建、修造と葺替は次の通りである。

建立、修造	葺 替
元和6年(1620)	
寛永14年(1637)	
寛文10年(1670)	
貞享3年(1686)	
	寶永2年(1705)
	享保6年(1721)
宝暦2年(1760)	
	明和元年(1764)
	天明元年(1781)
寛政4年(1792)	
	文化8年(1811)
文政2年(1819)	

天保 3 年 (1832)	
弘化 3 年 (1846)	
	嘉永 6 年 (1847)
	明治 11 年 (1878)
	昭和 18 年 (1943)
	平成 8 年 (1996)

イ 現在の本殿の再建年次

由緒記に「本社 横 9 尺 奥行 6 尺 椽 3 尺 天保 3 壬辰年再建」とあるが、その後の記録が見当たらず、又、現在の建物の棟札を確かめることもできないので、はっきりしたことは分からない。ただ、現在保管されている棟札から推測すれば天保 3 年 (1832) が最近の再建であると考えられる。

※ 年数では弘化 3 年 (1846) の棟札のほうが新しいが、文化財展資料ではこの棟札は他の建物ではないかと推測している。

(3) 修理等

最も近年の葺替は平成 8 年に行われた。平成 6 年に台風 26 号により屋根の被害を受けたので、氏子からの浄財を平成 6 年度から 3 年間 3 期に分割して集金して、平成 8 年 (1996) 2 月 18 日に奉祝祭を行った。

施工：田中社寺(株) 岐阜市

同時に、拝殿の正面開き戸、南正面柵、南正面上下開き戸及び北引き戸を修繕した。

5 幣殿

本殿と拝殿の間の建物で移殿又は渡殿と呼ばれることもある。

(1) 形状・規模等

ア 文化財展

幣殿 桧材 平正面入母屋造 瓦葺 5 坪 2 合 5 勺

控室 桧材 平家造 瓦葺 3 坪 3 合 3 勺

神饌所 桧材 平家造 瓦葺 3 坪 7 合

渡廊 桧材 木造 反橋形 幅 1.47m 長さ 2.70m 欄干高 0.58m

イ 神社取調書上帳

渡殿 奥行 4 間×横 2 間 2 尺

ウ 神社什物祭具其他取調書

此坪 9 坪 3 分 3 厘

西に神饌所及び東に控え所の 2 室があり建具で仕切られている。控所の外側部分は建て増ししたものと考えられる。

(2) 建設年次

不詳

(3) 修理等

平成 26 年 7 月に屋根の北面の一部を葺き替えた。この時、瓦に「三州国棚尾村瓦屋直造」の刻印があったが、年号の刻印は無かった。

6 拝殿

(1) 形状・規模等

ア 文化財展

桧材平正面入母屋造瓦葺 12 坪 7 合 1 勺

イ 神社取調書上帳

奥行 3 間×横 4 間

ウ 神社什物祭具其他取調書

12 坪

(2) 建設年次

ア 次の記録が棟札にある。

慶安 5 年（1652）6 月 16 日 「奉造立八王子前屋諸願成就所」とあり、前屋が造立されている。この前屋は拝殿のことと思われる。

イ 棟札は存在しないが、奎兵衛文書No.1086 に棟札の写しがあり、拝殿が文政 2 年（1819）に再建されたことも考えられる。

ウ 由緒記に「釣殿モ同時平白賁（なおあきら、1782～1850）代 総産子建立之 天保 3 年（1832）」と記されている。釣殿はこの拝殿のことと考えられるので、この時に再建されたものらしい。

(3) 修理等

平成 18 年（2006）に屋根の補修が行われている。

7 神楽殿

大祭に神楽が奉納される建物であり、本殿同様に常は板囲いで覆われている。

(1) 形状・規模等

ア 文化財展

桧材流破風造瓦葺 7坪2合8勺

イ 神社取調書上帳

堅3間半×横2間1尺

ウ 神社什物祭具其他取調書

7坪5分5厘

(2) 建設年次

平成25年に屋根の葺替が施工され、瓦について次のことが分かった。

ア 鬼瓦の頭の部分に「天保15年辰8月(1844)当所瓦屋利八作」の刻印があった。

イ 由緒記に「本社巽(東南)ノ方ニ 祭礼ノ節 毎年産子建立之 神楽ノ祖神天細女命 白賁代ヨリ初之」の記載があるが、それまでは小屋掛のようなもので毎年祭礼時には造って取り壊していたとも考えられる。

ウ 棚尾の歴史を語る会のテーマ6「神楽」の中に次の記載があった。

「棚尾神楽の沿革等」 昭和46年(1971)の新聞記事

郷土の民俗芸能 ささえる人たち 棚尾神楽 =碧南市棚尾=
長期間の猛げいこ 笛の音は波より高く

碧南市森ノ崎、八柱神社の秋祭りに奉納される棚尾神楽は天保十年(1839年)から口伝で伝えられていると関係者は信じている。これは神楽の世話役、同市森下、溶接業、石川鉦平さん(39)が、あるとき神楽殿の屋根に登って松葉の枯葉を清掃した際、屋根ガワラに天保十年と刻まれていたことから神楽も同時に始まったという見方である。

※ 15年を10年と読み違えたと思われる。

(3) 修理等

ア 杵兵衛文書No.1149の中に「角袖鬼板帛形」大正6年6月29日の記録があり、現地の瓦と同一と思われる。

イ 平成25年の葺替時に鬼瓦の外組みの雲の部分は年号無しで杵兵衛の刻印があった。

8 手水舎

正面階段の上に重厚な手水舎がある。

(1) 形状・規模等

ア 文化財展

平屋木造瓦葺き 建坪 11 坪

幅 6.62m 奥行き 5.74m

(2) 建設年次

昭和 28 年 10 月 20 日竣工

(3) 手水鉢は昭和 5 年 9 月に寄附されたものを使用している。

9 旧社務所（老人憩いの家）

現在の南部老人憩いの家は、旧の社務所であり齋館と呼ばれていたこともある。

(1) 形状・規模等

ア 文化財展

桧材平家造屋根瓦葺 26.00 坪

(2) 建設年次

建物南に建つ石碑の碑文は次のように記している。

（表面） 寄附人石碑 明治 43 年建立 東京市 古久根秋三郎 殿

（裏面） 社司 深津正亮 社守 榊原小三郎 社守 石川金作

棚尾村字西山の古久根秋三郎氏が東京に出て、故郷のためにこの立派な建物を寄贈されたことが分かる。

10 社務所

(1) 形状・規模等

ア 文化財展

桧材 平家造 正面入母屋瓦葺 47.54 坪

内訳：本家 45 坪＋玄関 1 坪 6 合 7 勺＋便所 8 号 7 勺

現在は、この他に流し部分が増築されている。

(2) 建設年次

竣工 昭和 12 年 9 月 15 日

昭和 10 年に町道が新設され、境内が大きく広がり社務所を新築した。棚尾小学校

の火災によって建設が若干遅れた。

1 1 末社「宮比社」

(1) 形状・規模等

ア 文化財展

本殿 桧材 平屋 瓦葺き 5合

拝殿 桧材 平屋 瓦葺き 1坪

イ 神社取調書上帳

本社 2尺四面 雨覆 奥1間×横4尺

ウ 神社什物祭具其他取調書

此坪1坪7分5厘

(2) 建設年次

不詳

(3) 沿革

明治期には豊年社（宮比社）と呼んだこともある。

(4) 内部に狛犬の飾り瓦が置いてあり、「文政二歳卯七月 当村瓦屋吉助内斎藤利八作」と彫ってある。

(5) 宮比社について

「式年遷宮と宇治橋」鈴木庄市著（榊国書刊行会発行から抜粋）

宮比神は宮廻神（みやのめぐりのかみ）と言われ、或はまた、大宮売（おおみやのめの）神であるとも言われ、更に、天細女（あめのうずめの）命の御別名であるともいいます。

宮廻神は大宮の四周に鎮座せられ、その境を護られる神であり、大宮売神は天照皇大神の御前に侍られ、後皇居にも祀られた神であります。

天細女命は皇大神が岩戸に入られた時、岩戸の前において歌舞せられ、皇大神を迎え奉られた事は御承知の有名な話です。

※ 伊勢神宮の内宮正殿の裏にも宮比社が鎮座する。

1 2 神馬舎（御厩所）

(1) 形状・規模等

ア 文化財展

桧材流破風造 瓦葺 3.00坪

(2) 建設年次

明治 41 年 9 月 建立長崎岩吉外 9 名 寄附

1.3 倉庫

(1) 西下倉庫

(2) 西上倉庫

ア 形状・規模等

縦 4.70m×横 9.21m 面積 12.5 坪

イ 建設年次

昭和 52 年 (1977) 6 月

建築事務所渡渡辺孝雄、永井電業、小笠原ブロック、大又建設、左官永坂英男

(3) 幟竿倉庫

ア 形状・規模等

縦 13.00m×横 1.16m×高サ 2.20m

イ 建設年次

平成 4 年 5 月 吉日

1.4 秋葉社

八柱神社に隣接して秋葉社があり平成 23 年に再建された。

(1) 形状・規模等

木造瓦葺き入母屋造り 建築面積 39 m² (12 坪)

(2) 建設年次

完成 平成 23 年 3 月 19 日 遷座祭

設計・施工及び管理業務

(株)梶川建設、(株)魚津社寺工務店 名古屋市

(3) 沿革

ア 神社取調書上帳

本社 2 尺 5 寸 四面

雨覆 奥 7 尺×横 5 尺

前屋 奥行 1 間 4 尺×横 7 尺

イ 神社什物祭具其他取調書

神殿 1棟 此建坪 5分6厘

拝殿 1棟 此建坪 3坪2分2厘

ウ 「碧海」平成12年愛知県神社庁碧海支部発行

本殿 1.00坪 木造屋根瓦葺

移殿 1.75坪 //

拝殿 6.00坪 //

社務所 12.50坪 // …… 昭和23年建替

石鳥居 1基

石燈籠 1対

エ 平成22年4月、旧社殿を解体した時の瓦の調査記録

(ア) 本殿

鬼瓦 2個(1対) 文政4年巳(1821年)3月吉日

當國住 神谷善八 作

(イ) 拝殿

大鬼瓦 三つ組み 2個(1対) 明治31年(1898年)

愛知県三河國 碧海郡棚尾邨 永坂奎兵衛

飾り棟 鬼瓦 6個 明治31年

愛知県三河國 碧海郡棚尾邨 永坂奎兵衛

飾り瓦龜 2個

三州棚尾奎兵衛

オ 尚、同時期に棟札を探したが見付からなかった。

1.5 現存しない建物

(1) 籠家

ア 社務所のことであると思われる。

イ 西上倉庫が出来る前は幟竿倉庫の位置にあって、倉庫として使用していた。

ウ 「由緒記」

「籠家 古拝殿ヲ以テ建之 本神ヨリ未申(西南)ノ方 白賁代」とあり、昔の場所は憩いの家の位置にあったが、旧社務所の建設に伴ない現在の幟竿倉庫の位置へ倉庫として移転し、更に西上倉庫の建築によって取り壊されたと思われる。

エ 神社取調書上帳

籠り家 3間×2間

オ 明治10年 神社什物祭具其他取調書

籠屋 壹棟 但氏子寄附年月不詳 此建坪6坪

(2) 納札所

次の記録によって、宮比社及び神馬舎が一時期納札所として使用されていたと考えられる。

ア 明治20年家屋台帳によって宮比社が納札所

イ 昭和21年財産目録によって神馬舎が納札所

(3) 水屋

ア 由緒記に「盥水帳 文政年 産子中寄進之 本社巽（東南）ノ方ニアリ 白賣代」とあるので神楽殿の北に水屋があった。

イ 神社取調書上帳

水屋 横6尺×堅8尺、 手水鉢 堅4尺5寸×横2尺5寸、

ウ 神社什物祭具其他取調書

水屋 1棟 但氏子寄附年月不詳 此建坪1坪3分3厘

エ 明治42年起財産台帳によると「桧材流破風造瓦葺1坪9合8勺」とある。又、使われていた手水鉢1個 但、文政5年8月惣氏子寄附「清浄水」は現在棚尾神社に置かれている。

(4) 井戸屋形及び井戸筒

ア 神社取調書上帳

神井戸 1ヶ所

イ 明治20年家屋台帳に木造瓦葺平家1坪6合3勺がある。しかし、昭和20年1月13日の三河地震によって倒壊した。

ウ 現在も手押しポンプで使用されている井戸筒については、明治42年財産台帳に「井桁形花崗岩 井戸筒瓦 直径7分 深5間」の記載がある。